

奈良県感染症情報

平成 30 年 第 40 週(10 月 1 日～ 10 月 7 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	RS ウイルス感染症	3.18	(3.09)	↘	↘	→	↘
2	感染性胃腸炎	2.29	(2.21)	→	→	↘	↘
3	手足口病	1.88	(0.97)	↑	↑	↑	↓
4	ヘルパンギーナ	0.71	(0.44)	→	↘	↗	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	0.68	(0.85)	→	↗	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症は報告数が多い状況が続いています。また、第 40 週はインフルエンザの報告が奈良市保健所管内から 6 件、中和保健所管内西部地域から 3 件ありました。マスク、手洗いによる基本的な感染症予防や、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけましょう。

手足口病の報告数は 9 月に入ってから減少していましたが、第 40 週は再び増加しています。特に奈良市保健所管内、中和保健所管内西部地域で増加しています。年齢別に見ると 1～2 歳児の発症が多く、およそ 7 割を占めています。手足口病は症状がなくなった後でも 2～4 週間、便からウイルスが排泄されることがありますので、特におむつを交換した際は必ず流水と石けんで十分に手洗いを行ってください。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

朝晩の気温の低下により、鼻汁、咳、咽頭痛の風邪の方が増加傾向にあります。対象疾患では一旦少なくなっていた手足口病が保育園児で増加しています。症状は口内炎が少なく、四肢の水疱疹も少ない方が目立ちます。熱も出ていない方が多くなっています。RS ウイルス感染症は減っています。感染性胃腸炎もまだ増加はしていません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は徐々に増加。一日ほどの発熱、感冒症状の例が主。
夏風邪はほぼ見られなくなった。手足口病はすくない。
感染性腸炎もすくない。
その他の感染症は少ない状況。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RS ウイルス感染症の流行は続いている。夏カゼは激減し、咳嗽の遷延する呼吸器感染症が増加している。胃腸炎はあまり多くない。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 30 年 第 40 週 10 月 1 日 ~ 7 日

保健所別報告数	奈良県	北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	
インフルエンザ定点数	55	14	14	11	10	2	4
インフルエンザ	9 (0.16)	6 (0.43)			3 (0.30)		
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2
RSウイルス感染症	108 (3.18)	21 (2.33)	6 (0.67)	39 (5.57)	37 (6.17)		5 (2.50)
咽頭結膜熱	22 (0.65)	1 (0.11)	1 (0.11)	8 (1.14)	12 (2.00)		
A群溶連菌咽頭炎	23 (0.68)	4 (0.44)	6 (0.67)	3 (0.43)	9 (1.50)		1 (0.50)
感染性胃腸炎	78 (2.29)	10 (1.11)	28 (3.11)	12 (1.71)	26 (4.33)		2 (1.00)
水痘	1 (0.03)		1 (0.11)				
手足口病	64 (1.88)	29 (3.22)	7 (0.78)	9 (1.29)	18 (3.00)		1 (0.50)
伝染性紅斑	3 (0.09)	1 (0.11)		1 (0.14)	1 (0.17)		
突発性発しん	16 (0.47)	6 (0.67)	2 (0.22)	2 (0.29)	6 (1.00)		
ヘルパンギーナ	24 (0.71)	2 (0.22)	7 (0.78)	6 (0.86)	9 (1.50)		
流行性耳下腺炎	3 (0.09)	2 (0.22)	1 (0.11)				
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0
急性出血性結膜炎							
流行性角結膜炎	18 (1.80)	2 (0.67)	4 (1.33)	3 (1.50)	9 (4.50)		
基幹定点数	6	1	2	1	1	0	1
細菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)				
無菌性髄膜炎							
マイコプラズマ肺炎							
クラミジア肺炎							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)							

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核2件(中和2)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(郡山1) 侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(郡山1)

❖ 第40週のトピックス ❖

◆ 風疹急増に関する緊急情報: 2018年10月3日現在

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/181003/rubella181003.pdf>

◆ 風しんの届出数の増加に伴う対策について

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/dl/181003_2.pdf

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

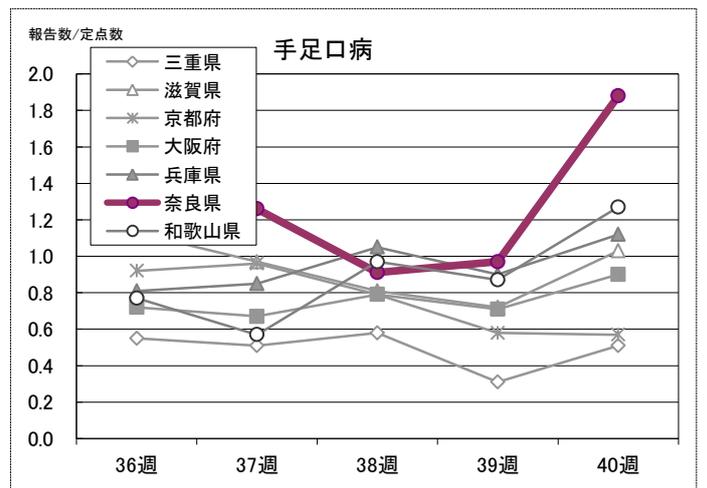
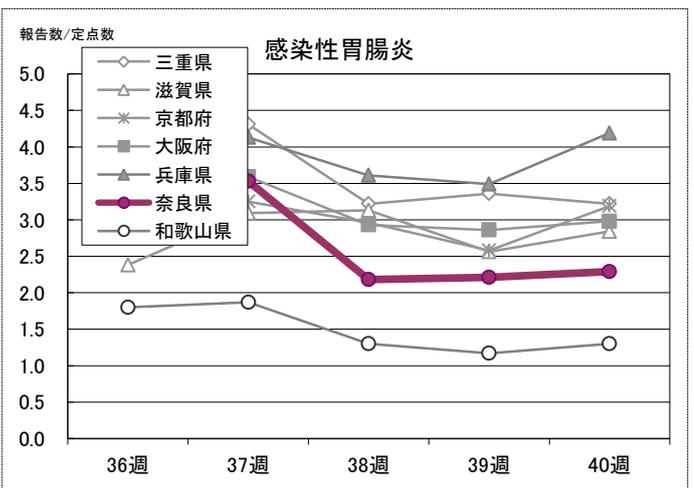
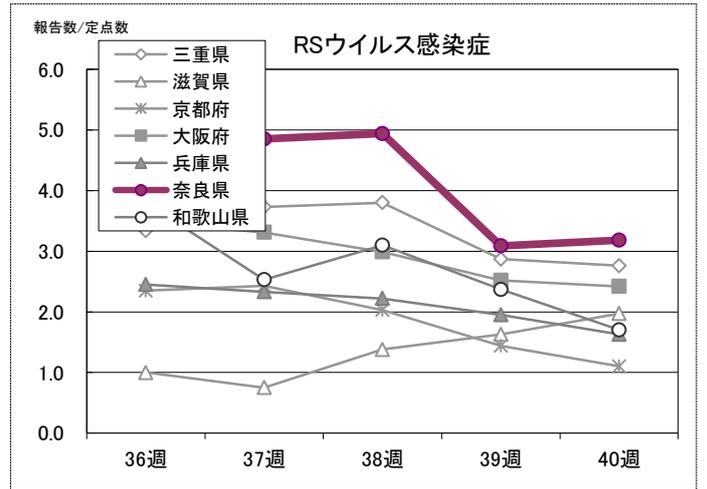
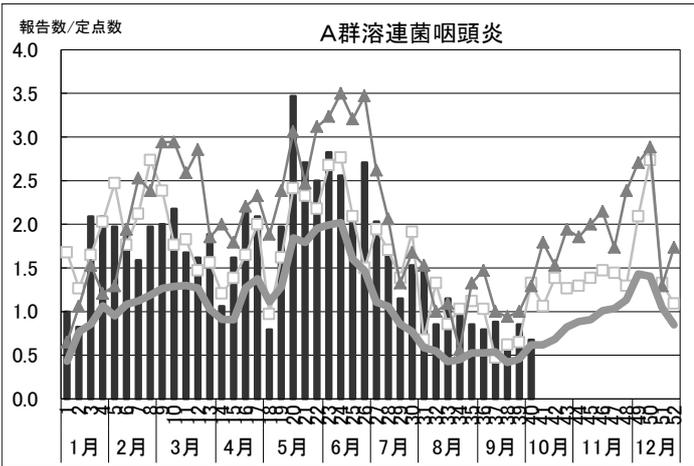
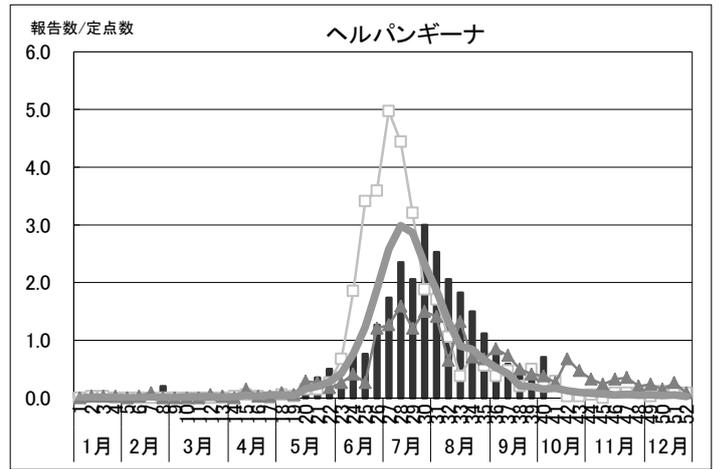
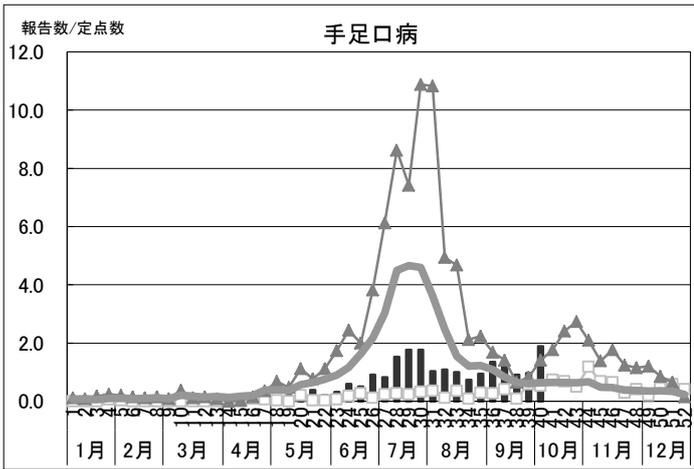
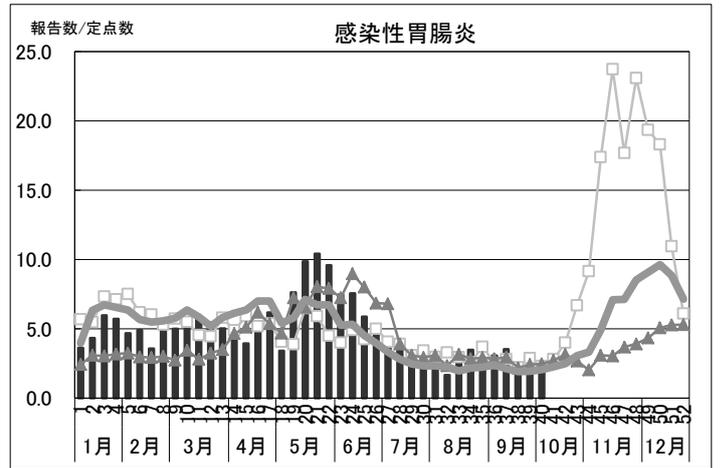
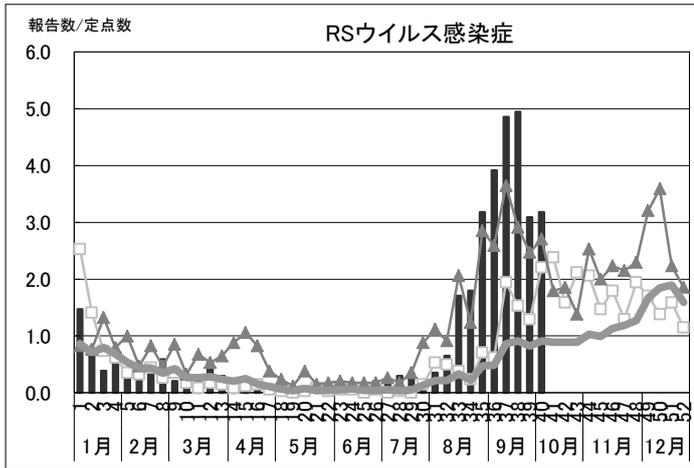
上段: 報告数
(下段): 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男				1				1	1												3	7856
	女					2				1	1					1	1					6	7825
RSウイルス感染症	男	4	12	29	8	3	3															59	662
	女	7	9	16	8	6	2	1														49	571
咽頭結膜熱	男			5	1	2	1			1												11	266
	女			1	2	3	2	1	1						1							11	234
A群溶連菌咽頭炎	男				1	1		1	6	2		1	2									14	1209
	女				2		1	1		2	1	1			1							9	1065
感染性胃腸炎	男	1	3	6	3	4	3	6	3	1	2	2	2	1	6							43	3499
	女	3	3	8	2	1	3	2			1		2	3	7							35	3077
水痘	男							1														1	159
	女																						174
手足口病	男	1	4	16	8	4	4	3		1												41	430
	女			9	9	1	1	3														23	317
伝染性紅斑	男						1			1												1	109
	女										1											2	115
突発性発しん	男		2	2	1			1														6	292
	女		5	2	1	1		1														10	277
ヘルパンギーナ	男		2	4	4	1	1	1	1													14	478
	女		1	1	2	3	1			2												10	399
流行性耳下腺炎	男							1	1													2	53
	女								1													1	40
急性出血性結膜炎	男																						1
	女																						
流行性角結膜炎	男			1			1							1		2	1	1			2	9	124
	女			1	2		1	1	1						1	2						9	132
細菌性髄膜炎	男																1					1	6
	女																						6
無菌性髄膜炎	男																						6
	女																						4
マイコプラズマ肺炎	男																						16
	女																						19
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						33
	女																						23

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H30 ▲ H29 □ H28 〰 過去10年平均



風しんの報告数が増加しています

感染拡大
防止のため

体調不良の時はムリしないで

風しんは

感染者の飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人にうつる感染症。風邪によく似ており、感染すると、発熱、発疹、リンパ節腫脹といった症状が認められ、多くの場合は数日で治ります。

心配なのは

妊娠早期の妊婦が風しんにかかると、出生児が先天性風しん症候群（眼や耳、心臓に障害が出ること）になる可能性があるため、注意が必要です。

どこで？

風しんは咳・くしゃみで他人にうつるため、特に、学校、職場、公共交通機関などの人が集まる場所で感染が拡大する恐れがあります。

みんなにできることは

- 体調がすぐれない場合には、ムリして外出しないでください。
- どうしても外出が必要な場合には、咳エチケットを徹底しましょう。
- 風しんを疑う症状（発熱、発疹など）が出現した際は、医師に相談しましょう。

